

東京都写真美術館年報

2004 - 2005

TOKYO
METROPOLITAN
MUSEUM
OF
PHOTOGRAPHY

東京都写真美術館年報／2004-05

Annual Report: Tokyo Metropolitan Museum of Photography
2004-05

はじめに

平成16年度は「明るく迎える美術館」を基本に据えながら、観覧者数43万1,521人と、開館以来初の40万人台を記録した平成15年度を、さらに2万人上回る実績を上げることが出来ました。

当館では、いつでも誰でも楽しめるように、3つの展覧会場と上映ホールを用い、お客様の多様なニーズに合わせた多彩な分野の展覧会や、映画を組み合わせた「ミュージアム・コンプレックス」という概念を掲げ、取り組みを進めております。

さらに、写真や映像の実技を体験するワークショップは、親子対象のプログラムや、初心者向けからセミプロクラス向けまで工夫を凝らしたプログラムを実施しました。また昨年度の試行結果を踏まえ、スクールプログラムは、今年度、さらに都内全域の小学校、中学校、高等学校を対象にプログラムガイドを送付し、着実な成果を上げており、未来における文化の担い手を育成することを目指しています。

正月2日からの年始特別開館に加え、本年度はさらに年末の12月28日も開館し、新潟県中越地震で被災した旧山古志村救援チャリティー上映会「掘るまいか」を開催しました。

昨今の文化施設を取り巻く状況は厳しさを増しておりますが、一人でも多くのお客様から信頼される美術館でありたいと、今後も努力を重ねてまいります。

本書が皆様のご参考になれば幸いに存じます。

東京都写真美術館

目次

平成16年度事業

美術館誌	5
開館の経緯	8
展覧会事業	9
普及事業	20
実験劇場	30
図書室	34
保存科学研究室	35
作品収集等	37
貸出施設利用状況	45
維持会員	46
組織図／入場者数	48
条例	51
施行規則	54
予算／歳入・歳出決算概要	56
平面図／施設面積／建物概要／設備概要	57
利用案内	59

4/1	外部評価委員会設置
4/1-5/9 (3/30-5/9)	「祈りの大地」野町和嘉写真展
4/1-6/11(3/13-6/11)	映画「アフガン零年」
4/3	2階カフェ「サンプルクレール」オープン
4/3-4/18	「インフォメーション・アートの想像力」展
4/3-5/16	没後50年「知られざるロバート・キャパの世界」展
4/22	スクールプログラム (山形県寒河江市立陵西中学校)
4/23	記者懇談会開催
4/24-5/16	休戦ライン155マイル 写真で見る38度線非武装地帯の自然 現代の秘境
5/1,5/2	B&Wワークショップ (春期)
5/12・5/14	スクールプログラム (資生堂学園資生堂美容技術専門学校)
5/12	スクールプログラム (東京都立国際高等学校)
5/15-6/3	東京写真月間2004
5/19	スクールプログラム (愛知県岩倉市立岩倉中学校)
5/22-7/11	奈良原一高 [時空の鏡：シンクロニシティ] 展
5/25	スクールプログラム (港区立東町小学校)
5/26・5/27	スクールプログラム (レコール・ヴァンタン)
5/29,6/5	カラープリント・ワークショップ
5/31	第1回外部評価委員会
6/8-8/1	世界報道写真展 2004
6/8	スクールプログラム (愛知県愛知郡東郷町立東郷中学校)
6/10	スクールプログラム (東京都立小石川高等学校)
6/12,7/3 (全2回)	奈良原一高 [時空の鏡：シンクロニシティ]展ギャラリートーク
6/12-7/16	映画「少女ヘジャル」
6/23	平成16年度第1回企画諮問会議
6/25	スクールプログラム (港区立高輪台小学校)
6/29	スクールプログラム (大田区立東調布第3小学校)
6/29	スクールプログラム (千葉大学教育学部附属中学校)
7/6	写真映像文化振興支援協議会理事会・懇親会
7/7	スクールプログラム (港区立東町小学校)
7/14	スクールプログラム (立教女学院小学校)
7/15	スクールプログラム (聖ドミニコ学園高等学校)
7/17-8/27	映画「ワー!マイキーリターンズ」
7/17-8/29	世界は歪んでいる。Supernatural Artificial展
7/17-9/5	光と影のシンフォニー藤城清治の世界展
7/17	世界は歪んでいる。Supernatural Artificial展セミナーワークショップ
7/21	スクールプログラム (武蔵野市立第5中学校)
7/22-8/4	博物館実習
7/24,7/25 (全2回)	子供/親子ワークショップ「光の魔術 フォトグラムを作る」
7/27	スクールプログラム (東京都立世田谷泉高等学校)

7/29	スクールプログラム（東京都図工研究会《都図研》）
7/30	第2回外部評価委員会
7/31,8/1（全2回）	写真美術館ガイドツアー
8/7-8/22	第15回日本写真作家協会展・第2回日本写真作家協会公募展
8/11	スクールプログラム（静岡県立商業高校美術部）
8/21,8/22（全2回）	子ども/親子映像系ワークショップ 「デジタルカメラで工作ワークショップ 動く写真と仕組み」（夏期）
8/28-8/31	映画「東京アニメアワード フィルムフェスティバル」
8/28-10/6	ウィリアム・クライン『PARIS+KLEIN』写真展
9/4-9/10	映画「ウィリアム・クライン『KLEIN+FILMS』映画祭」
9/4-10/11	PIERCING THE SKY EIICHIRO SAKATA
9/6	紀宮清子内親王殿下特別観覧（藤城清治の世界展）
9/11-10/17	東京オリンピック40周年記念報道写真展
9/11-10/22	映画「雲－息子への手紙－」
9/14	「あ・ら・かるちゃー渋谷・恵比寿・原宿」発足。NHKで記者発表。
9/14	スクールプログラム（港区立東町小学校）
9/16	スクールプログラム（香蘭女子短期大学）
10/6	映画「ウィリアム・クライン映画祭」 特別上映会
10/6,10/7	スクールプログラム（吉祥女子高等学校）
10/7	「PIERCING THE SKY EIICHIRO SAKATA」展セミナーワークショップ
10/16-11/21	「マリオ・テストイーノ写真展 ポートレート」
10/19	スクールプログラム（港区立東町小学校）
10/21-11/3	S S F世界スポーツフォトコンテスト2004写真展
10/22	スクールプログラム（都立八王子工業高等学校）
10/23	毛利衛氏と館長の対談（「ミッションフロンティア」関連事業）
10/24	B&Wワークショップ（秋期）友の会会員限定コース
10/26	映画「ネオ・ファンタジア」試写会
10/26	テレビ局報道局長会（於 カフェ「シャンブルクレール」）
10/26	スクールプログラム（東京大学教育学部附属中等教育学校）
10/27	映画「サンサーラ」試写会
10/27	平成16年度第2回企画諮問会議
10/27,10/28	スクールプログラム（吉祥女子高等学校）
10/29-10/31	映画「ショート・ショート・フィルムフェスティバルアジア2004」
10/30,10/31	B&Wワークショップ（秋期）
11/2	映画「オランダの光」試写会
11/3-12/17	映画「オランダの光」
11/6,11/7（全2回）	あ・ら・かるちゃー連携写真美術館ガイドツアー
11/8	第3回外部評価委員会（平成15年度事業実績報告）
11/9-12/15	ミッション：フロンティア-知覚の宇宙（そら）へ
11/9	スクールプログラム（東大和市立第3中学校）

11/9	スクールプログラム（北区立西ヶ原小学校）
11/20	スクールプログラム（筑波大学付属駒場中・高等学校）
11/24	スクールプログラム（東京都立国際高等学校）
11/27-1/16	「明日を夢見て」アメリカ社会を動かしたソーシャル・ドキュメンタリー
11/27-12/19	写真新世紀展2004 写真表現の新しい可能性に挑戦する
12/2	スクールプログラム（東京農業大学第一高等学校）
12/11,12/12,12/18,12/19	古典技法ワークショップ「コロジオン・プロセス…ガラス湿板原板と鶏卵紙」
12/16	スクールプログラム（武蔵野市立第5中学校）
12/17	第4回外部評価委員会（平成15年度事業実績報告）
12/18-12/26	映画「イタリア・アニメーション映画祭」
12/18-1/30	クレア・ランガン「フィルム・トリロジー」
12/25-2/6	日本の新進作家 vol.3新花論
12/28	映画「掘るまいか」
1/2-1/28	映画「ネオ・ファンタジア」
1/8,1/15（全2回）	「明日を夢見て」展関連カフェトーク
1/12	記者発表（10周年特別企画展関連）
1/13	スクールプログラム（大田区立立新井第4小学校）
1/20	スクールプログラム（港区立東町小学校）
1/21-2/19	HEIAN 戸田正寿作品展
1/28	スクールプログラム（京都市立銅駝美術工芸高等学校）
1/29,1/30（全2回）	「日本の新進作家 vol.3新花論」展セミナーワークショップ
1/29-2/20	映画「サンサーラ」
2/1	スクールプログラム（大田区立立新井第4小学校）
2/3	スクールプログラム（大田区立立新井第4小学校）
2/5-3/13	グローバルメディア2005／おたく：人格＝空間＝都市
2/10	スクールプログラム（港区立神応小学校）
2/11-2/19	第5回九州産業大学フォトコンテスト受賞作品 上野彦馬賞写真展
2/19,2/20,2/26,2/27（全4回）	BW・カラープリント・ワークショップ
2/24	メディア芸術祭授与式
2/25-3/6	第7回文化庁メディア芸術祭
3/8	スクールプログラム（港区立東町小学校）
3/11	「グローバルメディア2005／おたく：人格＝空間＝都市」展フォーラム
3/12-3/27	第33回 社団法人日本広告写真家協会公募展
3/12-3/31(3/12-4/17)	小林伸一郎写真展「BUILDING THE CHANEL LUMIERE TOWER」
3/12-3/31(3/12-4/22)	映画「天上草原」
3/19-3/31(3/19-4/24)	愛知万博スペインパビリオン Ten Views スペイン現代写真家10人展
3/26,3/27（全2回）	子ども/親子ワークショップ
	「デジタルカメラで工作ワークショップ 動く写真と仕組み」（春期）
3/29	平成16年度第3回企画諮問会議



開館の経緯

昭和61年11月—第二次東京都長期計画で「写真文化施設の設置」を発表

昭和62年9月—東京都映像文化施設設置委員会設置

昭和63年7月—東京都映像文化施設作品資料収集・評価委員会設置

平成元年2月—「東京都映像文化施設（仮称）基本構想」（設置企画委員会報告）を発表

平成元年8月—東京都写真美術館設置企画委員会、同作品資料収集・評価委員会設置

平成2年6月—東京都写真美術館条例施行。東京都写真美術館一時施設開館

平成3年8月—「東京都写真美術館基本計画」を発表。東京都写真美術館総合施設の建設工事着手

平成5年7月—東京都写真美術館総合施設開設準備委員会設置

平成6年8月—東京都写真美術館の建物竣工

平成7年1月21日—東京都写真美術館総合開館

[歴代館長]

平成2年6月1日—初代館長に渡辺義雄就任（平成7年3月31日まで）

平成7年4月1日—第2代館長に三木多聞就任（平成12年3月31日まで）

平成12年4月1日—第3代館長に徳間康快就任（同年9月20日まで）

平成12年11月6日—第4代館長に福原義春就任

奈良原一高 【時空の鏡：シンクロシティ】展

期 間 平成16年5月22日(土)～7月11日(日) 44日間
主 催 東京都／東京都写真美術館
協 賛 株式会社ニコン／ニコンカメラ販売株式会社／富士
写真フィルム株式会社／重森弘淹顕彰会
協 力 新潮社／凸版印刷株式会社／セイコーエプソン株式
会社／フォト・ギャラリー・インターナショナル／
株式会社フレームマン／サッポロビール株式会社

奈良原一高は、早稲田大学在学中の1956年に軍艦島をテーマにした「人間の土地」を発表。59年に第2回ヴェネチア国際写真ビエンナーレで銅賞を受賞、写真家集団「VIVO」を結成。その後、パリやニューヨークを拠点に数多くの作品を発表した。本展は日本で初の回顧展である。処女作をはじめ、ヨーロッパを鮮烈な視線でとらえた「ヨーロッパ・静止した時間」や、広大なアメリカ大陸を旅した「消滅した時間」に加え、ファッション作品を含む未発表作品、そしてCGを駆使した最新作の「HEAVEN (天)」にいたるまで、「記憶」と「旅」をテーマとした秀逸な写真作品を、当館2階及び地下1階展示室の2会場を使い一挙公開した。新聞のみならず、ファッション誌、女性誌をはじめ幅広いメディアで取り上げられ、とくに新規の女性観覧者の来館が目立った。



世界は歪んでいる。 Supernatural Artificial

期 間 平成16年7月17日(土)～8月29日(日) 38日間
主 催 東京都／東京都写真美術館／朝日新聞社／スーパー
ナチュラル・アートフィッシャル展実行委員会／メル
ボルン大学アジアリンク・センター／ゲートルー
ド・コンテンポラリー・アート・スペース
協 賛 凸版印刷株式会社
後 援 オーストラリア大使館
助 成 豪日交流基金／国際交流基金
協 力 アーツ・ビクトリア／キヤノン株式会社

オーストラリア＝ジャパン・アーツ・プログラムの一環として、オーストラリアのコンテンポラリー・アーティストを紹介することを目的とした。優れた画像加工技術の作品が発表され続けているオーストラリアの現代作家の中から、21世紀の視覚表現において注目されている作家9名を選出して展示した。本展では特に、人間の様々な心理学的要素を取り入れて制作した作品を紹介し、同時代の価値観やオーストラリア固有の問題から派生する表現などについて考察した。邦題は英語タイトルから複数の意識案を天野祐吉氏からあげていただき、決定した。学生や20～30代をターゲットに広報を展開。大使館の協力もあって英字新聞などにも大きく掲載された。また期間中、ゲストキュレーターや作家3名のレクチャーを開催したが、作品のみならず、オーストラリアの現代や作家活動などもあわせて説明することで、より作品の鑑賞を深めることが出来た。



「明日を夢見て」 アメリカ社会を動かした ソーシャル・ドキュメンタリー

期 間 平成16年11月27日(土)～平成17年1月16日(月)
41日間
主 催 東京都／東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会
後 援 アメリカ大使館
特別協賛 ユナイテッド航空
協 賛 花王株式会社／Kodak／モルガン・スタンレー
助 成 芸術文化振興基金
特別協力 瞬報社写真印刷株式会社

過去から現在、私たちの社会は様々な問題を抱えてきたが、それを多くの人びとがともに考え、より良くしていこうと行動を起こすまでには、そのことに気づき最初に動いた人たちの功績があった。その中に現実をすどく見つめるカメラを武器にした写真家たちがいた。ニューヨーク・ヘラルド誌の記者として、ニューヨークの移民たちの悲惨な生活環境を世に知らしめたジェイコブ・A・リース。学校にも行けず長時間労働を強いられていた子どもたちを救うため、国際児童労働委員会に雇われたルイス・W・ハイン。世界恐慌下のニューディール政策のひとつで、荒れ果てた農地と農民たちの生活を救済するためのプロジェクトFSA（農業安定局）。そこに雇用された、ウォーカー・エヴァンス、ドロシア・ラング、ベン・シャーンら。写真教育を通して社会を見つめることを推し進めた写真家集団「フォト・リーグ」。彼らの写真はみな、強いインパクトで見た人たちの心を動かし、結果的に社会を変えていく力となった。忍耐と情熱によって生み出されたドキュメンタリー写真、約200点を紹介した。



日本の新進作家 vol.3新花論

期 間 平成16年12月25日(土)～平成17年2月6日(日)
35日間
主 催 東京都／東京都写真美術館
協 力 キヤノン株式会社／株式会社河野メリクロン／株式会社日本医化器械製作所／パナソニックSSマーケティング株式会社／恵比寿ガーデンプレイス

写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動を展開するという写真美術館の基本的性格に則った新進作家展の第3弾。今回は有史以来の芸術の大テーマである「花」を取り上げ、近年のガーデニングブームといった社会的背景を基に、「人はなぜ花に魅せられるのか」を檀田珠実・鬼頭健吾・赤崎みま・銅金裕司の4人の若手アーティストによる新作で紹介した。また関連事業として「フォト・ガーデンin写美」を開催。これは一般公募で寄せられた「花」の写真を3階展示室前ロビーに展示するもので、好評だった。



ミッション：フロンティア —知覚の宇宙（そら）へ

- 期 間** 平成16年11月9日(火)～12月15日(水)
32日間
- 主 催** 東京都／東京都写真美術館
- 共 催** 日本科学未来館／株式会社NHKエンタープライズ21
- 協 力** 宇宙航空研究開発機構（JAXA）／東京芸術大学／凸版印刷株式会社／NHKテクニカルサービス株式会社／日本バイナリー株式会社／株式会社タカラ／株式会社海洋堂／株式会社オタキングほか

21世紀を迎え、人類に残された最後のフロンティア＝宇宙・深海、私たちの身体・脳といったインナースペースへの注目はますます高まっている。本展では、株式会社NHKエンタープライズ21の企画協力により、日本科学未来館との連携展示（ウォールギャラリー）を通して、アーティスト／科学者による未知の世界の探求や、そこから生まれるすぐれた造形性・概念を持つ取り組みを視覚的に特集した。かつての「理想郷」ではなく、私たちの「日常」となっていく宇宙を中心に、未だ見ぬ視覚的フロンティア＝科学と芸術の融合領域を、メディアアート作品や資料展示、宇宙飛行士インタビューやVTR体験ソフトによって体験的に展開した。本展は、次なる世界へ到達しようという探求や想い、そして科学と芸術とのコラボレーションが実現する新しい可能性を提示するものとなった。



文化庁メディア芸術祭協賛事業／ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館帰国展

グローバルメディア2005 おたく：人格＝空間＝都市

- 期 間** 前期 平成17年2月5日(土)～2月20日(日)「GM2005－新しいヒトへ」
後期 平成17年2月22日(火)～3月13日(日)「おたく：人格＝空間＝都市」
- 主 催** 東京都／東京都写真美術館／独立行政法人国際交流基金（ジャパンファウンデーション）
- 共 催** 株式会社NHKエンタープライズ21
- 協 力** CG-ARTS協会（財団法人画像情報教育振興協会）／株式会社ティー・ジー・エイ／株式会社フォトン／日本ヒューレット・パッカド株式会社／大日本印刷株式会社／みつわ印刷株式会社／ビーディディ株式会社／株式会社デジタルスケープ／インターサイエンス株式会社／株式会社NHKテクニカルサービス／シャープ株式会社／シリコンスタジオ株式会社／プロサイド株式会社／3Dコンソーシアム／ソニー株式会社／中京テレビ放送株式会社／株式会社ナムコ／クリエイティブクラスター／マクロメディア株式会社／株式会社イーケイジャパン ほか Technology by Apple
- 展示協力** 住友化学工業株式会社＝（ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館）／韓国文化コンテンツ振興院／キャノン株式会社／株式会社アニメイト／ネクソン／株式会社日本航空インターナショナル／ハルモージュ／三菱地所株式会社／千代田まちづくり推進部
- 特別協力** ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館再現実行委員会

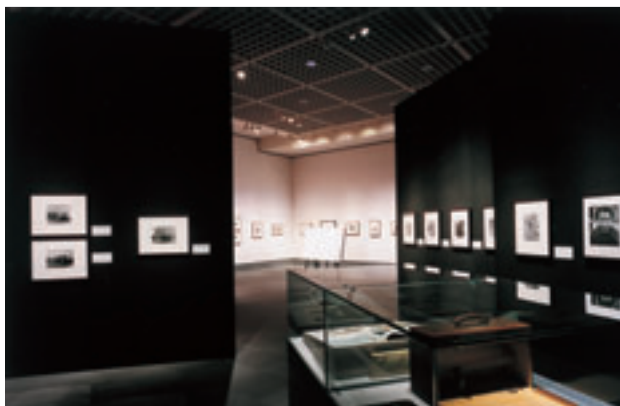
科学と芸術の融合領域に挑戦するメディアアートなどの作り手によるSIGGRAPHやArs Electronica25周年受賞作品に加え、話題を呼んだヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館「おたく：空間＝人格＝都市」の再現展示を行った。会期中に開催される第8回文化庁メディア芸術祭との連携をはかり、海外で評価される日本発の創作活動を紹介・参加体験できる拠点をめざした。近年とくに興味の高まるサブカルチャーとしてのおたく文化を先駆的に取り上げ、また、新人や新領域を積極的に紹介して、海外で高く評価される「日本的なるもの」を再考するという、当館の当初の目的を十分果たした展覧会であった。



没後50年 「知られざるロバート・キャパの世界」展

期 間	平成16年4月3日(土)~5月16日(日) 38日間
主 催	東京都写真美術館/毎日新聞社
後 援	外務省/在日スペイン大使館
出品協力	スペイン・サラマンカ内戦資料館/スペイン国立図書館/東京富士美術館
協 力	株式会社日本航空
協 賛	大塚製菓株式会社/株式会社ニコン/ニコンカメラ販売株式会社/株式会社資生堂/株式会社ボンイマージュ

20世紀最大の報道写真家として世界に知られるロバート・キャパ(1913-54)。本展覧会は、彼の没後50年を記念し、その知られざる素顔に迫った。ロバート・キャパは1913年、ブダペストに生まれ、パリで写真家として活動をはじめた。以後彼はスペイン市民戦争、日中戦争、第二次世界大戦下のヨーロッパ、イスラエル建国時の中東戦争、インドシナ戦争など三大陸で起こった5つの歴史的な戦争を写真に記録する。キャパの残した膨大な写真の数々は20世紀の貴重な証言であり、今もなお全世界の人びとに強烈な印象を与え、感動を呼びおこしている。本展覧会はキャパの偉大な業績を紹介すると同時に、写真家「キャパ」としての名声を得る第一歩となった「スペイン市民戦争」の写真群を、スペイン・サラマンカ市民戦争資料館とスペイン国立図書館の特別協力を得て、ヴィンテージプリント83枚をわが国で一挙初公開した。共和国側の民兵の死の瞬間をとらえた《崩れ落ちる兵士》に代表される写真群は世界に衝撃を与え、市民の苦しみや破壊を象徴化するキャパのまなざしは、ピカソの《ゲルニカ》同様、市民に勇気と希望を与え、その後の写真家としての生き方を決定づけるものである。キャパの知られざる素顔や人生観に触れながら、彼の込めた平和へのメッセージを紹介した。



ウィリアム・クライン 『PARIS+KLEIN』写真展

期 間	平成16年8月28日(土)~10月6日(水) 32日間
主 催	東京都写真美術館/朝日新聞社
後 援	アメリカ大使館/フランス大使館
助 成	財団法人地域創造
協 賛	エールフランス航空/株式会社ニコン/ニコンカメラ販売株式会社
協 力	ヨーロッパ写真美術館

ウィリアムクラインは1928年ニューヨーク生まれ。陸軍に入隊し、パリで除隊後ソルボンヌ大学で文学を修めた。その後絵画を学びながら独学で写真を始め、当時実験的な抽象写真で注目されていたドイツのバウハウスに大きな影響を受けた。1955年『ヴォーグ』誌のグラフィックデザイナーとなった彼は、やがてファッション写真家へと転向。翌年代表作となった写真集『ニューヨーク』を発表し、パリの権威あるナダール賞を受賞。以後独特の<ブレ・ボケ・アレ>を多用したスタイルで『ローマ』『モスクワ』を発表し、1961年には写真展のため初来日を果たすとともに、1964年『東京』を出版した。またSFやパリコレなどを舞台にした映画製作にも意欲を燃やし、現在に至るまで精力的に活動が続けている。2002年には都市シリーズ『PARIS+KLEIN』を写真展と写真集で同時に発表し、高い評価を得た。本展はパリのヨーロッパ美術館で開催された同展の日本唯一の巡回展となり、大型カラー写真作品と代表作及び未発表の映画作品8本も合わせて公開した。



PIERCING THE SKY EIICHIRO SAKATA

期 間 平成16年9月4日(土)~10月11日(月) 33日間
主 催 東京都写真美術館／朝日新聞社
協 賛 株式会社資生堂／株式会社ニコン／ニコンカメラ販売株式会社／サッポロビール株式会社／富士写真フイルム株式会社
協 力 恵比寿ガーデンプレイス／株式会社写真弘社／富士フイルムイメージテック株式会社

本展は肖像写真家として著名な坂田栄一郎氏の個展を開催した。彼は日本大学芸術学部写真学科を卒業後、(株)ライトパブリシティに一年在籍後、渡米しリチャード・アヴェドンに師事した。一時帰国した際に1970年(昭和45年)にニコン・サロンで開催した初個展「Just Wait」は当時の写真界にセンセーションを巻き起こし、その後「注文のおおい写真館」、「TALKING FACE」などそれまでの日本の肖像写真にはあり得なかった意欲的な作品を発表し続け、その一方で1988年(昭和63年)の創刊から雑誌『アエラ』の表紙のための肖像を撮影している。今回はこの展覧会のために約7年前より撮りおろされた未発表作品88点(ポートレート38点、自然50点)で構成された。前回に発表した「amaranth」は環境問題をテーマに「人物」と「樹」によって構成されていたが、今回の展覧会ではそれがより発展し、広く、深いテーマとなり、静謐なモノクロの「人物」と色鮮やかな「自然」が対峙するように展示され、「人」と「自然」との共生を表現した。展覧会開催と同時に同タイトルの写真集が求龍堂より出版された。なおこの展覧会と写真集の活動により、坂田氏は土門拳賞および日本写真協会作家賞を受賞した。



マリオ・テストイーノ写真展 ポートレート

期 間 平成16年10月16日(土)~11月21日(日) 32日間
主 催 東京都写真美術館／朝日新聞社
企 画 National Portrait Gallery, London
協 賛 BURBERRY

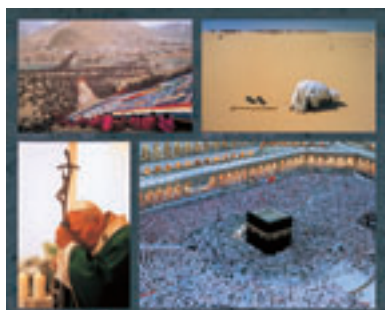
世界のファッション写真界をリードするマリオ・テストイーノ。ヴォーグやヴァニティフェアなどのファッション誌で活躍し、その洗練された作風は高い評価を得ている。また、バーバリー、グッチ、ヴェルサーチを始めとする世界のトップブランドから広告写真の依頼も殺到する“最も注目される写真家”である。世界のセレブリティを撮った写真展「ポートレート」は2002年のロンドンを皮切りにヨーロッパ4都市で開催され、各地で好評を博した。本展では、ダイアナ妃、チャールズ皇太子、ウィリアム王子らの英国王室、ジュリア・ロバーツ、グウィネス・パルトロウ、メグ・ライアンなどハリウッド女優、ケイト・モス、ナオミ・キャンベルらスーパーモデル、ほかにマドンナ、ローリング・ストーンズ、ベッカム夫妻など「ファッション写真界の貴公子」と呼ばれるテストイーノが撮った各界著名人の華やかな肖像写真約110点を紹介した。



「祈りの大地」野町和嘉写真展

期 間 平成16年3月30日(火)～5月9日(日) 34日間
主 催 PPS通信社
共 催 東京都写真美術館
協 賛 キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社／株式会社サカエヤ／株式会社サン・ライフ／富士写真フイルム株式会社
協 力 株式会社ケルヴィン／株式会社写真弘社／文化堂印刷株式会社
後 援 社団法人日本写真協会

本展は、野町和嘉が30年以上に及び写真家活動で追い続けてきた、過酷な風土と人間の営みのなかから「祈り」と「大地」をテーマに、約170点で構成される集成展。野町のルーツであり、ライフワークでもある「サハラ」「ナイル」のほか、「メッカ巡礼」「チベット」、さらにヴァチカンの真髄に迫る作品群など、代表作を一堂に集めた。時代の転換期に生きる私たちに、本当の豊かさとは何かを考える好機となる展覧会となった。



「インフォメーション・アートの想像力」展

期 間 平成16年4月3日(土)～4月18日(日) 14日間
主 催 「インフォメーション・アートの想像力」展実行委員会
共 催 東京都写真美術館
協 力 多摩美術大学／東京芸術大学／東京造形大学／東京大学大学院／東北芸術工科大学／筑波大学／電気通信大学／名古屋市立大学大学院／武蔵野美術大学／早稲田大学／彩都IMI大学院スクール
企画製作 株式会社ヒューマンメディア

現在、劇場と出版、放送と通信などの表現の場は融合し、実物と複製、現実と虚構の差異は失われていくかのようである。このような「情報の世紀」にあって、視覚・聴覚・言語による表現はどのような想像力をもちうるのか。伝達(メディア)の技術(テクノロジー)に価値を置く時代から、情報(インフォメーション)そのものに価値を見いだす時代への変化の中で、人はどのような美学を共有し得るのか。本展は、映像、音響、パッケージ、インスタレーション等、大学の学科、研究室教員、学生の先端的なメディア表現技術を展示し、産業界や美術界のあらたなメディアコンテンツの創出に貢献することを目的に開催した。



休戦ライン155マイル 写真で見る38度線非武装 地帯の自然 現代の秘境

期 間 平成16年4月24日(土)～5月16日(日) 20日間
主 催 東京日韓親善協会連合会
共 催 東京都写真美術館／在日本大韓国民団東京地方本部
後 援 外務省／東京都／駐日韓国大使館 韓国文化院／韓国地方自治団体国際化財団東京事務所／株式会社NHKエンタープライズ21／社団法人日本写真家協会／社団法人日本広告写真家協会／社団法人日本写真協会
協 賛 株式会社ニコン／コダック株式会社／株式会社ロッテ／株式会社東京サマーランド
助 成 日韓文化交流基金／国際交流基金
協 力 大韓航空／株式会社フレームマン／株式会社写真弘社

朝鮮半島が38度線によって分断されてから50年が経過した。この非武装地帯に、奇しくも人跡未踏の秘境が生まれた。四季折々に今は稀にしか見ることが出来ない草花が咲き、絶滅に瀕している野鳥が飛び交い、鹿や狸、狐などの動物が生息し、豊かな自然が命を謳歌する貴重な一帯となった。この非武装地帯に、韓国陸軍省の特に許されたカメラマン、崔秉寛氏が1997年から3年間にわたって10万枚にも及び写真を撮影した。そのなかから約200点を厳選し、展示した。



東京写真月間2004
 ー明日のためにー
 日本のドキュメンタリー写
 真家

期 間 平成16年5月15日(土)～6月3日(木) 17日間
主 催 「東京写真月間2004」実行委員会／社団法人日本写真協会／東京都写真美術館
後 援 外務省／文化庁／東京都／バングラデシュ人民共和国大使館

1960年代から今日まで、世界各地で精力的に活動している14名の写真家のドキュメンタリーフォト約200点を展示。この中には戦争や紛争で家族や財産を失い惨禍に苦しむ人びとや、地球環境の悪化で貧困、飢餓に苦しむ民衆、偏見や差別を乗り越えて力強く生きる人びとなどの姿がある。こうした事実を人間的な眼差しで淡々ととらえ、伝え、訴えることに日夜取り組んでいる多くの写真家の真摯な姿勢とその作品を見てもらい、私たちにできることは何であろうかを、ともに考える展覧会とした。



世界報道写真展2004

期 間 平成16年6月8日(火)～8月1日(日) 48日間
主 催 朝日新聞社／世界報道写真財団
共 催 東京都写真美術館
後 援 オランダ大使館／社団法人日本写真協会／社団法人日本写真家協会
協 賛 キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社／TNT

いま、この瞬間も地球上では紛争が続いている。多くの命が犠牲になる中、戦い続ける軍隊やテロリスト…そこには同時に、多大な危険を冒しても、最前線の映像を記録しようとするカメラマンたちの姿がある。命を落とすカメラマンやジャーナリストも多い。彼らが伝えようとしたものは何なのか。前年1年間に起こった事件や災害、さらにはスポーツや芸術の現場を切り取った約200点の作品を通して、世界中の報道カメラマンのメッセージを伝えた。



光と影のシンフォニー
 藤城清治の世界展

期 間 平成16年7月17日(土)～9月5日(日) 44日間
主 催 読売新聞社／美術館連絡協議会
共 催 東京都写真美術館
協 賛 花王株式会社／カルピス株式会社
協 力 藤城清治事務所／日本通運株式会社

光と影で表現する絵画『影絵』。影絵を芸術として広く浸透させた作家が藤城清治である。童話の世界や郷愁を誘う風俗、景色を、幻想的な色彩のシルエツトで描く作風は高く評価され、1989年には紫綬褒章、95年には勲四等を授賞している。本展は、作家本人の所蔵品を中心に、戦後間もないころのモノクロ作品から、本展覧会を記念して作成した新作までの作品約100点を選びすぐって展示した。



第15回日本写真作家協会展 第2回日本写真作家協会公募展

期 間 平成16年8月7日(土)～8月22日(日) 14日間
主 催 日本写真家協会
協 力 東京都写真美術館

本年度は、協会が発足して15周年の大きな節目の開催に当たることから、これまでにない258名という多くの会員が出品した。また第2回の公募展において入賞・入選に輝いた作品92点も併せて展示した。

東京オリンピック40年 記念報道写真展

期 間 平成16年9月11日(土)～10月17日(日) 32日間
主 催 株式会社産業経済新聞社
後 援 東京都写真美術館
財団法人日本オリンピック委員会 (JOC) / 日本オリンピック協会 / 株式会社フジテレビジョン / 株式会社ニッポン放送 / サンケイスポーツ / 夕刊フジ / フジサンケイ ビジネスアイ / サンケイリビング新聞社
協 力 国際オリンピック委員会 (IOC)
写 真 フォート・キシモト
資料提供 日本スポーツ振興センター秩父宮記念スポーツ博物館 / フォート・キシモト
企画構成 岸本 健 / 飯島 浩

東京オリンピック40年を記念して、スポーツ報道写真の専門家集団、フォート・キシモトが撮影した貴重な写真を中心に展示。感動の開会式に始まり、重量挙げ、バレーボール、体操、マラソンなど日本中を熱狂させた競技の模様、そして競技を離れた選手たちの素顔、一般人との交流や選手村の様子、完成しつつある競技場と変わりゆく東京の姿など、数々のショットが40年前の東京の秋を再現。さらに、東京オリンピックのポスター、金・銀・銅メダル、聖火トーチなどの貴重な資料なども展示した。

SSF世界スポーツフォトコンテスト2004写真展

期 間 平成16年10月21日(木)～11月3日(水) 12日間
主 催 S S F 笹川スポーツ財団
後 援 外務省 / 文部科学省 / 国連教育科学文化機関 / 国際トリムフィットネス生涯スポーツ協議会 / アジアニア・スポーツ・フォア・オール協会 / 財団法人日本オリンピック委員会 / 特殊法人日本ワールドゲームズ協会 / 財団法人日本体育協会 / 財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 / 財団法人日本ユニセフ協会 / 東京都写真美術館
協 賛 キヤノン株式会社 / アディダス・ジャパン株式会社 / 富士写真フイルム株式会社
特別協賛 日本財団

本展は、世界最大規模のスポーツフォトコンテストである。躍動する肉体の美、ヒューマニズムあふれる感動のシーン、ゲームの決定的瞬間など、スポーツに関するあらゆる写真を世界から公募し、世界一流のカメラマンから町のアマチュアカメラマンまでが参加する視野の広い、グローバルなコンテストである。今回は世界45カ国以上から9,800点にのぼる作品が寄せられ、その中から金賞のほか入賞作品4点、入選作品111点を展示した。また「JOCアテネオリンピック公式写真展2004」も会場内で併催した。



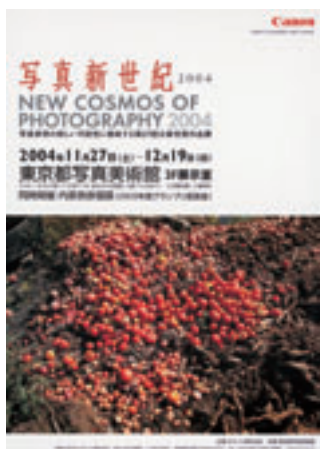
写真新世紀2004
写真表現の新しい可能性に挑戦する
第27回公募受賞作品展

期 間 平成16年11月27日(土)～12月19日(日) 20日間

主 催 キヤノン株式会社

共 催 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘を目的に、1991年秋「写真新世紀」をスタートした。従来の銀塩写真はもちろんデジタル映像を取り入れたり、他の映像表現分野とクロスするような実験的作品を含めた、自由で独創的な試みを応援している。今回は1,087人、3万点以上の公募の中から選ばれた5名の優秀受賞作品を展示した。また佳作受賞者のポートフォリオコーナーを設置し、サブギャラリーとして昨年度グランプリ受賞者の新作展を同時開催した。期間中に公開審査会を行い、準グランプリ2名を決定した。



クレア・ランガン
「フィルム・トリロジー」

期 間 平成16年12月18日(金)～平成17年1月30日(日) 35日間

主 催 毎日新聞社／クレア・ランガン展実行委員会

共 催 東京都写真美術館

企 画 nca | nichido contemporary art

後 援 アイルランド大使館
協 賛 東京濾器株式会社／ユニマットグループ／株式会社栄光／オリコン株式会社／株式会社イー・ホームズ／文化シャッター株式会社

協 力 株式会社エーアンドエーマテリアル／株式会社永田音響設計
助 成 グレイトブリテンササカワ財団／Cultural Relations Committee of Ireland

認 定 社団法人企業メセナ協議会

クレア・ランガンは1967年生まれ、アイルランド出身、現在ダブリンを拠点に映像インスタレーション作家として世界的に注目されている。「フィルム・トリロジー」は、【水・青】、【砂・黄金】、【火・赤】の三部がそれぞれ独立した作品としてテーマを持ち、「悠久の自然の三つの要素（水・砂・火）の中を、一人の人間が自己の本質、実存を求めて、記憶の旅へと彷徨していく」というメッセージが込められている。本展はこの三作を、サラウンド・スピーカーによって全身が包まれるような感覚を覚える音響効果とともに展示した。



HEIAN
戸田正寿作品展

期 間 平成17年1月21日(金)～2月19日(土) 26日間

主 催 「HEIAN」展実行委員会

共 催 東京都写真美術館

後 援 朝日新聞社

協 賛 キングプリンティング株式会社／日本写真印刷株式会社／株式会社アマナ／株式会社竹尾

協 力 Hudson Hills Press/matrix inc.

写真家・戸田正寿が数年にわたって撮り続けた「HEIAN」の展覧会。“平安”とは、時代表現ではなく「光」「色」「湿度」「空気」「優しさ」といった純粋なイメージの連想により、戸田が独自の“引き算”というコンセプトによって、より純化された美を表現するもの。本展では「白木」「生き物」「自然の光」という“なまもの”を、人工的なライティングを一切使用せず、戸田の目線という“自然”を取り入れ、カメラの絞りを開放して、目を細めたカメラ的シャッターによる視覚ではなく、肉眼を見開いて自然に物を見つめる生理感で撮影した作品を展示した。



第5回九州産業大学フォト コンテスト受賞作品 上野彦馬賞写真展

期 間 平成17年2月11日(金)～2月19日(土) 8日間
主 催 九州産業大学／毎日新聞社
後 援 オリオンイメージング株式会社／キヤノン販売株式会社／コダック株式会社／コニカミノルタホールディングス株式会社／サイバグラフィックス株式会社／株式会社ニコン／富士写真フイルム株式会社／ポロラボクリエイト福岡／ペンタックス株式会社
後 援 文化庁／日本写真芸術学会／東京都写真美術館

日本における写真の開祖上野彦馬の名前を冠する本コンテストは、写真文化の振興に力を入れている九州産業大学と毎日新聞社により実施され、「出てこい現代の彦馬たち」を合い言葉に第5回をむかえた。今回の上野彦馬賞はタイ在住の後藤勝氏が、ジュニア大賞には沖縄の金城宏行氏が、全国と海外からの応募作品2,365点の中から選ばれた。本展では、この大賞作品と入選作品71点のほか、過去4回の受賞作品8点を展示した。



平成16年度 [第8回] 文化庁メディア芸術祭

期 間 平成17年2月25日(金)～3月6日(日) 10日間
主 催 文化庁メディア芸術祭実行委員会（文化庁・CG-ARTS協会）

第8回目となる今回は、「受賞作品展」で世界43カ国1,498の応募から選ばれたアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの優秀作品約170点を展示。同時開催のイベントと併せて、鑑賞だけでなく体験したり自由に触れたりできる作品約250点が紹介された。「受賞者シンポジウム」は受賞者と各審査委員らが、メディアアートのトレンドや受賞作への思いなどを深く掘り下げた。また、「イノセンス」などの劇場公開アニメーションをはじめ、世界各国から集まったアニメ、CG、ミュージックビデオ、CMなど100作品以上も上映し人気を博した。



第33回社団法人日本広告 写真家協会公募展

期 間 平成17年3月12日(土)～3月27日(日) 14日間
主 催 社団法人日本広告写真家協会
後 援 経済産業省／文化庁

広告業界における唯一の団体である広告写真家協会による公募展。公共広告部門と企業・商品広告部門がある。今年度の公共広告部門のテーマは「地球環境」、企業部門は自由である。経済産業大臣賞、文部科学大臣賞各1作品のほか、部門賞、奨励賞などの受賞作品約100点を展示した。



小林伸一郎写真展 BUILDING THE CHANEL LUMIERE TOWER

期 間 平成17年3月12日(土)～3月
31日(木) (4月17日(日))
17日間

主 催 シャネル株式会社
共 催 東京都写真美術館

相反する両極の世界に惹かれ、時代に取り残され朽ち果てていく「鉱山」「工場」などの廃墟や、完成に向かおうとする「建造物」「高速道路」「ダム」などを被写体にレンズを向けてきた小林伸一郎。彼は銀座3丁目にオープンした「シャネル銀座ビルディング」の全撮影を担当。旧ビル解体から完成までを650日に及ぶ密着撮影で写し出した。本展ではアーティストックなフォトドキュメントに取り組んだ作品を大型オリジナルプリント100点ほかで展示した。

愛知万博スペインパビリ オン Ten Views スペイ ン現代写真家10人展

期 間 平成17年3月19日(土)～3月
31日(木) (4月24日(日))
11日間

主 催 スペイン万博公団
共 催 東京都写真美術館
協 力 Lunwerg社

過去25年の民主社会において、スペインが遂げた変貌をテーマにした写真展。クリスティーナ、ガルシア、ロデロなど、ドキュメンタリー写真で知られる10人のスペイン人写真家の作品を展示した。彼らのファインダーを通して、今日のスペイン、スペインの街角、人びとの生活や習慣、祭りや儀式、ライフスタイルの変化や過去数十年の経済や社会の発展と変遷などを収めた作品が集結。創造性や専門知識のレベルの高い写真家たちによる、スペインが経験してきた20世紀から21世紀への移り変わりの瞬間を焼き付けた写真を展示した。

